

ロボプロファイトルール

ロボットプロダクションの考え方：

ロボットプロダクションでは観戦していただける方に対して、誰でもすぐに理解できる、わかりやすいステージショーを目指します。大きな変更を行った点としましては、スリッパダウンの廃止、捨て身技のリスクの増加、しゃがみ歩行などの制限、が挙げられますのでルールを御確認下さい。

ロボットの規格については、新しい発想やアイデア、チャレンジ精神を持ったロボットをできるだけ制限したくないと考えた結果このようにまとめました。

また、今後のイベント状況を見て、ルールは改善、修正される可能性があります。今回のルール変更で参加者の皆様に御負担を強いることとなりますが、参加者の皆様、観客の方に楽しんでいただけるよう日々努力してまいりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

ROBO-PRO スタッフ一同

1. ロボットの規格について

- (1) ロボットは人型である必要はないが、二足歩行ロボットであることとする。
- (2) ロボットの身長は直立した状態で、最大60cmとする。身長とは地面からロボットの一番高いところまでを示す。
- (3) ロボットの重量は6kgまでとする。
- (4) 足裏の規定

ロボットが直立した場合の胴体と足の境目のロール軸、またはピッチ軸から地面までの長さの縦60%、横40%、最大長さ13cm以下の足裏とする。

その面積を広く改造していない二足歩行ロボットキットの足裏の使用を認める

二足歩行ロボットキットのオプションで市販されている足裏の使用を認める。二足歩行ロボットキットやそのオプションの足裏を の規定に違反しない範囲で他の二足歩行ロボットキットや自作二足歩行ロボットに組み合わせてもよい。

足裏に滑り止めを張るなど、グリップを調整する目的での改造を認める。

- (5) ロボットの操縦方法は無線、有線、自律、のいずれかで行うこととする。
- (6) 規格外のロボットについても競技に参加可能であるが、エキシビジョン扱いとなる。
- (7) 競技に関して、明らかに他のロボットが大きく不利になる、または対抗する術がない特殊なロボットに関しては同様にエキシビジョン扱いとなる場合がある（重

- 量が6 kg以上ある、足裏が吸着する、強力な風を発生させて相手を倒すなど)
- (8) 上記の規格を満たしたロボットであっても、安全や競技の進行において問題があると思われる場合は試合開始後であっても参加資格を取り消す場合がある（発火装置内蔵など）。問題があるか判断の難しい場合は事前にお問い合わせ下さい。

2. 試合について

- (1) 試合は3ラウンド制とする。先に2ラウンド先取したロボットを試合の勝者とする。
- (2) 1ラウンドは3分とし、先に3ダウンを奪う、またはラウンド終了の時点でダウン数の少ないロボットをラウンド勝者とする。
- (3) 両者のダウン数が同じ場合は、審判がラウンド勝者を判断する。
- (4) 試合中のタイムは認めない。ただし修理、バッテリー交換時間はラウンド間で1分与えられる
- (5) ダウン規定
- ロボットがリングから落下した場合。
 - ロボットの足裏以外の部分が接触した場合。
 - 捨て身技については次項参照とする。
 - ロボットが5秒以上停止した状態の場合はスタンディングダウンとする。**
 - これらの判定は審判に委ねられる。
- (6) 捨て身技について
- 捨て身技とは攻撃のために足裏以外の部分をリングにつけて攻撃する方法である。例（手をついたパンチやキック、手をついたアタック、前転攻撃）
- 捨て身技により相手からダウンを奪った場合は、有効とする。
- 捨て身技により相手からダウンを奪えなかった場合は、捨て身技を仕掛けたロボットが1ダウン奪われる。
- (7) ロボットが試合中に単独で倒れた場合（スリップ）は、ダウンとする。ただし単独で倒れたかの判断は審判に委ねられるものとする。
- (8) ロボットがダウン中に10カウントで試合に復帰できない場合、直前にダウンを奪ったロボットがそのラウンドの勝者とする。
- (9) ダウンを奪ったロボットはカウント中相手を攻撃してはならない。また、カウント中動いてかまわないが、相手に近づいてはならない。
- (10) ダウンを奪われたロボットはカウント中倒れたまま移動してもかまわない。
- (11) 試合開始、中断、再開の合図について
- 審判の「ファイト」の合図で試合は開始される。
 - 審判の「待て」の合図で試合は中断される。試合中断が必要な場合は、以下

の理由とする。

(ア) ロボット同士が絡まり、危険な状態になった場合

(イ) その他、試合の中断が必要と審判が判断した場合

審判の「ファイト」の合図で試合は再開される。試合再開が必要な場合は、以下の理由とする。

(ア) ダウンしたロボットが立ち上がることにより、試合に復帰した場合

(イ) その他試合が中断し、再開の合図が必要になった場合

(12) 禁止事項

両方の膝を常に90度以下の角度に曲げながらの歩行を禁止する。歩行中片方の膝が90度以上の角度であれば問題ない。

ロボットがファイティングポーズの状態では片方の膝を90度以下の角度で曲げ、もう片方の膝を斜めにまっすぐ伸ばしながらの移動を禁止する。両方の膝が90度以上の角度であれば問題ない。

攻撃や防御のために、膝を90度以下に3秒以上曲げてはならない。ペナルティは1ダウンとする。ただし起き上がり中は3秒以上膝を曲げてよい。

(13) 競技参加人数やイベント時間により、トーナメントの一部、またはすべての試合を1ラウンド3ダウン制に、1ラウンドの時間を短縮する場合がある。

3. 総合得点で争われるイベントについて

ロボアスリート、ロボプロファイト、その他の競技の総合得点で順位が争われる場合、同イベント内でロボットの構造を変更してはならない。ただし足裏のグリップの調整は認める。